

平成29年3月8日

各位 株式会社リボミック
代表者名 代表取締役社長 中村義一
(コード番号: 4591 東証マザーズ)

問合せ先 取締役執行役員管理本部長 宮崎正是
TEL. 03-3440-3303

抗 FGF2 アプタマーの軟骨無形成症に対する
非臨床 POC 獲得に関する研究成果発表について

世界各地のアプタマーを研究する多様な研究者が一堂に会する国際学会、「Aptamers2017」が4月11日～12日に英国・オックスフォードで開催されます。

本学会において、当社代表取締役社長の中村義一が、当社で軟骨無形成症の新規治療薬として開発中の抗 FGF2 アプタマー（自社創薬品目 RBM007）に関する最新の研究成果を「Anti-FGF2 aptamer restores bone growth affected in Achondroplasia transgenic mice」（軟骨無形成症モデルマウスでの抗 FGF2 アプタマーによる骨成長回復効果）と題し講演いたします。

軟骨無形成症は、線維芽細胞増殖因子に対する3型受容体（FGFR3）の遺伝子変異により FGFR3 が活性化しやすく、FGF シグナルの過剰流入によって軟骨等の正常な発育が阻害され、四肢短縮等を伴う低身長をもたらす疾患です。軟骨無形成症は、難病に指定され、新生児約 25,000 人に対して1人の発生率という希少疾患であり、有効な治療薬が存在せず、Unmet Medical Needs の疾患として新規な薬剤の開発が求められています。

本学会では、当社による最新の研究成果として、軟骨無形成症モデルマウス（変異したFGFR3遺伝子をマウスに発現させ、四肢や尾骨が短縮した症状を起こすマウス）を用いた試験において、画期的な治療効果が確認され非臨床POCの獲得を確かなものとしたことを報告いたします。これにより、本研究の妥当性や科学的正確性などが学会の場で評価、検討されるだけでなく、本成果を本学会に参加したアカデミア等の研究者や製薬企業関係者などに認知させ、抗FGF2アプタマーの開発の推進及びアライアンスの進展に繋がる活動を展開してまいります。

なお、抗FGF2アプタマーの軟骨無形成症治療薬としての開発については、平成28年2月に国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の希少疾病用医薬品指定前実用化支援事業に採択され、推進しております。

以上